令和6年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【大戸小学校】

① 今年度の課題と授業改善策

	学習上・指導上の課題		授業改善策【評価方法】
知識・技能	＜学習上の課題＞算数「数と計算」の領域の正答率が低い。＜指導上の課題＞問題演習やドリル学習等に十分な時間が確保できていない。	⇒	タブレット学習（スタサプ・ドリルパーク等）を活用した取り組みを授業・朝学習・家庭学習で継続的に行い、基礎的・基本的な知識・技能の一層の充実を図る。（毎日実施）また、市学調における無回答率を下げる。（前年度比5%減）
思考・判断・表現	＜学習上の課題＞国語・算数ともに、記述式問題の無回答率が高い。＜指導上の課題＞主体的に自分の考えをもち、表現する授業場面が少ない。	⇒	目的に応じた交流の型を設定し、授業の中で適切な意見の伝え合いができるようにする（単元の中で1回以上実施） 児童が記述式の問題に取り組む際に、評価の観点を示し、自分の考えが書けるようにする。（毎回実施）また、オクリンクや共同編集作業を取り入れ共働的な学びの機会を確保する。

② 全国学力・学習状況調査結果について（分析・考察）

知識・技能	国語の話し言葉と書き言葉の違いに気づく問題と、主語と述語の関係を捉える問題に課題がみられた。会話や作文における言葉遣いや、書かれている内容を正しく読み取ることへの理解が不十分であると考えられる。 児童質問調査の「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」における肯定的な回答の割合は95%であった。子ども主体の学びとなるような授業を今後も継続していく。
思考・判断・表現	国語の「話す・聞く」領域において課題がみられた。自分の考えが伝わるように表現を工夫したり、目的や意図に応じた伝え方を考えたりする力が不十分であると考えられる。また、算数の「図形」領域で、多角形の面の数を求め、その理由を書く問題の正答率が低く、性質の理解や自分の考えを言葉で適切に伝える力に課題があると考えられる。 児童質問調査の「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」における肯定的な回答の割合は84%で、他の項目に比べて低い割合だった。主体的に自分の考えを表現したり発表したりできる授業を今後も継続していく。

③

	中間期報告		中間期見直し
	評価（※）	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	タブレットを活用したドリル学習に取り組む活動を継続することで、タブレット学習が習慣化してきている。結果がすぐに確認できるため、自己の学びを振り返る機会にもなっている。	変更なし
思考・判断・表現	B	自分の考えを記述する活動で評価の観点を示すことで、具体的な課題や目的意識をもって書けるようになってきた。全国学力・学習状況調査における無回答率は市の平均を下回っていた。 単元によってオクリンクや共同編集作業を行う学習を取り入れることで、共働的な学びにつなげることができた。	変更なし

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（概ね達成）C 6割未満（あと一歩）

④ さいたま市学習状況調査結果について（分析・考察）

知識・技能	国語「読むこと」の領域については、全学年で市の平均を上回る結果を得た。引き続き、中心となる語や文を捉えたり、必要な情報を見つけたりしながら読む力を育んでいく。 算数「図形」の領域の問題の正答率がやや低く、特に3年生では図形の形やその特徴の理解が必要な問題、6年生では円周の長さや立体の体積を求める問題に課題が見られた。図形の特徴を理解し、長さや面積、体積などを正確に求める力を向上させる必要がある。
思考・判断・表現	国語「書くこと」の領域において課題が見られた。読む力は備わってきているが、文章全体の構成に着目して書いたり、相手に伝わるような書き表し方や文末表現の工夫をしたりすることに課題のある児童が多いことが考えられる。日頃から相手や目的を意識し、適切な表現で書けるような学習活動を増やしていきたい。

⑤ 授業改善策の達成状況

	評価（※）	
知識・技能	A	タブレットも含めた問題演習やドリル学習等の時間を確保し、継続して基礎的・基本的な知識・技能を向上させる取り組みに努めたことで、さいたま市学習状況調査における知識・技能問題の正答率は市の平均を3．5%上回った。また、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目における肯定的な回答は90%を超えており、無回答率も全校平均で1%以下となり、昨年度より大幅に低くなった。
思考・判断・表現	B	ICTを活用した共働的な学び（共同編集作業や他者参照を取り入れた実践）や、単元を通じて自分の学びを自己評価する（ルーブリック評価）取り組みを継続することで、目的意識をもって主体的に取り組むことができる児童が多くなってきた。自分の考えを書くという点では課題が見られるが、「書けない」「どう書けばいいのかわからない」という児童は減少しており、さいたま市学習状況調査における国語「書くこと」の無回答率は1%を下回っている。

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（概ね達成）C 6割未満（あと一歩）

⑥ 次年度への課題と授業改善策

知識・技能	引き続き学校や家庭での学習の中でタブレットも含めた問題演習やドリル学習等の時間を確保し、基礎的・基本的な知識・技能の向上に努めていく。また、授業で得た知識を実生活に活用できるような活動を組み込んでいくことで、より深く定着できるようにしていきたい。無回答率については今年度一定の成果が得られたので、来年度も様々な課題や問題の解決に向けて主体的に取り組もうとする力を育んでいきたい。
思考・判断・表現	全国学力・学習状況調査で課題となった「話す・聞く」領域とさいたま市学習状況調査で課題が見られた「書くこと」領域を向上するために、より主体的に自分の考えをもったり表現したりするための授業づくりに取り組んでいく。そのために、従来のような決まった形式の交流の場だけでなく、学習の中で児童から生まれる必要感のある交流の機会を設定し、自らの学びを調整しながら適切な意見の伝え合いができる力を育んでいきたい。